

厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）  
分担研究報告書

ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究：  
「新型コロナワクチンを安全に接種するための資料作成」

研究分担者 岩田 敏 国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院感染症部  
研究分担者 岡田 賢司 福岡看護大学基礎・基礎看護部門  
研究分担者 中野 貴司 川崎医科大学小児科  
研究協力者 多屋 馨子 国立感染症研究所、感染症疫学センター

研究要旨

新型コロナワクチンの接種開始にあたり、リスクコミュニケーションの実施と適切な接種方法により、迅速かつ安全にワクチン接種が実施されることを目的として、新型コロナワクチンとして導入される mRNA ワクチン及びウイルスベクターワクチンに関する国内外の有効性・安全性に関する情報を収集し、ワクチン接種にあたって医療関係者、一般市民の十分な理解が得られ、ワクチン接種を迅速かつ適切に行っていくことができるような動画、リーフレット、冊子等の資料の作成を行う。

A. 研究目的

新型コロナワクチンの接種開始にあたり、リスクコミュニケーションの実施と適切な接種方法により、迅速かつ安全にワクチン接種が実施されることを目的とする。

B. 研究方法

新型コロナワクチンとして導入される mRNA ワクチン及びウイルスベクターワクチンに関する国内外の有効性・安全性に関する情報を収集し、ワクチン接種にあたって医療関係者、一般市民の十分な理解が得られ、ワクチン接種を迅速かつ適切に行っていくことができるような動画、リーフレット、冊子を作成する。

特に接種あたってのリスクコミュニケーション、適切な筋注による接種方法、アナフィラキシーなどの副反応が起きた場合の対応について、分かりやすい説明ができることに留意した。

製作実施期間は令和3年1月から令和4年2月である。

C. 研究結果

- ① 動画「医療従事者のための新型コロナウイル  
スワクチンを安全に接種するための注意とポ  
イント」（14分13秒）を作成し、厚生労働  
省公式 You Tube にて公開した。

(<https://www.youtube.com/watch?v=rcEVMi2OtCY>)

- ② リーフレット「一医療従事者の方へ－新型コ  
ロナウイルスワクチンを安全に接種するた  
めの注意とポイント」を作成し、厚生労働省ホ  
ムページに掲載した。

(<https://www.mhlw.go.jp/content/000764700.pdf>)

・・・・資料1

- ③ 冊子「新型コロナウイルス感染症に係る予  
防接種の実施に関する接種者向け手引き」を  
作成し、全国都道府県医師会等に配布した。

・・・・資料2

D. 考察

新型コロナワクチンは、短期間に多くの方に接種  
する必要があること、集団接種会場で接種される場  
合が考えられること、これまで国内ではあまり実施  
されてこなかった筋肉注射により接種されること、  
接種後の副反応として注射部位の疼痛、発熱、倦怠  
感などの症状がみられる頻度が高いこと、接種直後  
のアナフィラキシー反応や迷走神経反射に留意する  
必要があること、などの点から、ワクチンを安全に  
接種するための注意とポイントについて、接種に関  
わる医療従事者や行政者が共通の理解を持つ必要が  
ある。今回作成した資料は、厚生労働省公式 You

Tube の動画が公開された2021年4月2日から2022年2月までに80万回以上視聴されるなど、新型コロナウイルスの接種に携わる関係者によって数多く閲覧され、新型コロナウイルスが迅速かつ安全に接種されることに貢献したと考えられる。

#### E. 結論

新型コロナウイルスの接種開始にあたり、新型コロナウイルスを安全に接種するための資料（動画、リーフレット、冊子）を作成し公開した。全国の関係者に新型コロナウイルス接種に関する適切な情報を提供することにより、同ワクチンの国内における適切かつ安全な接種普及に貢献できたと考える。

#### F. 健康危険情報

特になし。

#### G. 研究発表（発表雑誌名巻号・頁・発行年等も記入）

##### 1. 論文発表

なし。

##### 2. 学会発表

なし。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

##### 1. 特許取得

なし。

##### 2. 実用新案登録

なし。

医療従事者の方へ

# 新型コロナウイルスワクチンを 安全に接種するための注意とポイント

新型コロナウイルスワクチンを短期間で多くの人に安全に行うための注意とポイントを解説します。このワクチンはこれまで国内であまり行われていなかった筋肉注射です。筋肉注射の手技についてもわかりやすく紹介します。

監修

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
“新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業”  
「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」

研究代表者：廣田良夫  
分担研究者：若田 敏／岡田賢司／中野貴司

研究協力者：多屋馨子  
監修協力者：峯 真人／中山久仁子

## 接種会場の環境

プライバシーが保護され、密を避けた環境を用意してください。  
被接種者ごとに手指衛生を徹底してください。  
救急対応の手順や物品を確認してください。

## 予診

集団接種の場合、予診は、問診と視診を基本とします。  
接種要注意者・基礎疾患を有する人など、予診医が必要と認めた人には  
聴診・触診を行います。



### 予診時に確認すること【リスクコミュニケーション】

以下については、必ず問診で確認してください。

ワクチンの効果と  
副反応についての理解

予防接種健康被害  
救済制度の認知

重いアレルギー反応  
の既往

接種不適当者に該当する症状が悪化している場合や全身状態が悪い場合には、接種を延期して、体調が良くなってから接種を行うことを検討します。

集団接種で問診医が接種に迷う場合は、かかりつけ医などでの個別接種を検討していただくのもよいでしょう。

### 接種不適当者（接種を行いません）

- ① 明らかな発熱を呈している。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかである。
- ③ 接種しようとする接種液の成分に対してアナフィラキシーを呈したことが明らかである。
- ④ その他の理由により予防接種を行うことが不適当な状態である。

### 接種要注意者（接種の適否を慎重に判断してください）

- i 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症又は凝固障害を有する人
- ii 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- iii 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人
- iv 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- v 過去にけいれんの既往のある人
- vi 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

## 接種前のチェック

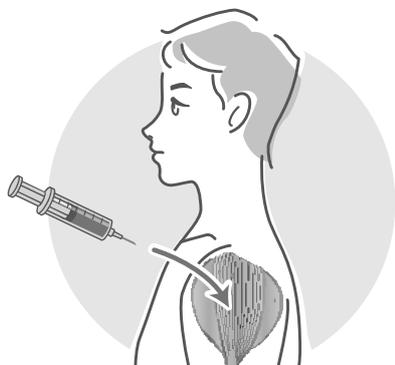
まず、お名前、そしてアルコール過敏症かを確認してください。  
アルコール過敏症の場合、アルコールフリー（クロルヘキシジングルコン酸塩含浸など）の消毒綿を使います。



過緊張、採血等で気分がわるくなったことがある人は、ベッドに横になっての接種も考慮します。

## 筋肉注射のポイント

新型コロナウイルスワクチンは筋肉注射です。  
通常、三角筋の中央部に注射します。



被接種者ごとに、必ず手指消毒をしてください。  
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒してから、新しい手袋を着用してください。

被接種者には腕を下におろし、リラックスした姿勢をとってもらいます。



### 1 穿刺部位の確認

注射部位は三角筋中央部です。肩峰から真下に3横指程度下の位置が目安になります。  
接種部位が上方すぎるとワクチン関連肩関節障害を、下方すぎると橈骨神経障害を起こすリスクがあるので、注意が必要です。

\*接種部位の目安として肩峰下の前後腋窩線を結ぶ線の高さを推奨する報告もあります。



## 2 穿刺部位の消毒

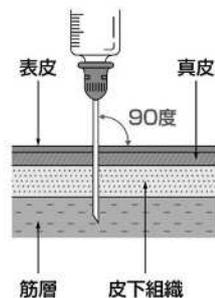


穿刺部位を中心から外側に向けて円を描くように、直径5cm以上の範囲を消毒綿で拭いてください。  
アルコールが乾燥するまで待ちます。

## 3 穿刺



利き手でシリンジを持ちます。  
注射部位周辺の皮膚を軽く広げるように伸展させてから三角筋の外縁に手を添えます。  
注射針を皮膚に約90°の角度で素早く刺してください。



大事なことは  
筋肉内に針を刺し、  
薬液を注入  
することです。

### 短いシリンジの場合



### 長いシリンジの場合



シリンジの持ち方に、決まりはありません。支持しやすい持ち方で接種してください。

## 注射針について

通常、太さ25G、長さ25mmのものをしますが、年齢・体格に応じて、適切に筋肉内に接種できるものを選んでください。

高齢者など筋肉量の少ない人の場合は長さ16mmの針を。ただし、付け替える際に薬液が漏れたり汚染させないよう十分な注意が必要です。



## 1 薬液を注入



三角筋には大きな血管がないので、陰圧をかけて血液の逆流を確認する必要はありません。

シリンジと注射針が安定するように工夫して持ち、適度な速度で注入してください。

## 2 抜針



穿刺部位に消毒綿をあて、素早く針を抜いてください。

### 3 消毒綿で注射部位を押さえる



接種後は揉まないで、軽く押さえます。抗凝固療法や抗血栓療法を受けている人には、最低2分間強めに押さえてもらいます。

### 4 使用済の針の処理



針刺し事故防止、および感染の危険があるため、針はリキャップせずに注射器ごとただちに専用廃棄容器に捨ててください。

### 5 接種直後に声かけをする



被接種者に終了したことを伝え、異常がないか声をかけてください。



接種後は、必ず手指消毒をしてください。  
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒をしてから、新しい手袋を着用してください。

## 接種後の注意

### 血管迷走神経反射

接種後は、血管迷走神経反射による失神や気分不良が起こる場合があります。観察室などへの移動にも注意してください。

### アナフィラキシー

アナフィラキシーが疑われる場合は、アドレナリン製剤が第一選択になります。事前に、用意しておく必要があります。

### 血管迷走神経反射とアナフィラキシーの特徴

	発症時期	症状
血管迷走神経反射	接種直後から	徐脈、 血圧低下
アナフィラキシー	接種数分後から	頻脈、皮膚症状 (膨疹、丘疹)、 血圧低下

#### ◆接種後の観察

観察室では、背もたれのある椅子で15分ほど休んでもらいます。即時型アレルギー反応やアナフィラキシーの既往のある接種者は、特に注意するために30分の経過観察が必要です。

#### ◆接種後の注意を伝えてください

##### 伝えること

- 接種日は激しい運動は控えてもらうこと。
- 入浴はかまわないこと。
- いつもと違う感じがしたら、接種担当医やかかりつけ医、相談センターに連絡し、予防接種をしたことを伝えて相談すること。



新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する  
接種者向け手引き  
2022 年 2 月 24 日版

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
“新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業”  
「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」  
(研究代表者 廣田良夫)  
研究分担者・研究協力者 岡田賢司、中野貴司、岩田敏、多屋馨子  
執筆協力者  
中山久仁子 (日本プライマリケア連合学会)  
浦野友彦 (日本老年医学会)  
早川智・山田秀人・加藤聖子・宮城悦子 (日本産科婦人科学会)  
加藤実 (日本大学麻酔科)  
田中孝明 (川崎医科大学小児科)

## 目次

1. 安心して接種を行うための接種体制 .....	4
(1) 接種施設の環境整備のポイント .....	4
(2) 事前の情報入手・接種予約.....	5
(3) 接種会場での受付・予診時・接種時の注意事項.....	6
(4) 接種直後の会場での注意点、帰宅後の注意点 .....	7
2. 接種時の注意.....	8
(1) 予診時 .....	8
①接種不適合者 .....	8
②接種要注意者 .....	8
(2) 筋肉内注射について.....	9
①手技について .....	9
②出血傾向のある者への接種について.....	12
3. 医療機関以外の場所で集団的な接種を行う際の接種後の注意事項.....	15
(1) 安全基準の遵守.....	15
①経過観察措置 .....	15
②応急治療措置 .....	15
③救急搬送措置 .....	16
(2) 次回以降の接種時期及び接種方法の説明.....	16
(3) 副反応が発生した場合の連絡先 .....	16
4. 接種直後の反応への緊急対応 .....	17
(1) アナフィラキシーで注意する症状とその対応 .....	17
①定義.....	17
②診断基準 .....	17
③重症度 .....	18
④鑑別疾患 .....	19
⑤治療.....	20
⑤-1 アドレナリン.....	21
⑤-2 アドレナリン以外の治療.....	25
⑥準備すべき医療備品 .....	26
⑦副反応評価基準（ブライトン分類） .....	26
(2) 血管迷走神経反射への対応.....	30
5. 帰宅後の対応.....	31
(1) 接種後の疼痛、発熱への対応.....	31
(2) 発熱・倦怠感等、COVID-19 の発症時とよく似た症状を認めた時の対応 .....	31

(3) mRNA ワクチン接種の際の注意点 .....	32
(4) 接種するワクチンの種類によって接種後に見られる反応は異なる .....	33
(5) 接種局所の症状が強い場合の対応 .....	37
6. 接種後に有害事象を疑う症状の方が来院したときの対応 .....	38
(1) 基本的な診療対応 .....	38
(2) 副反応を疑う症状を認めて受診した時の問診事項 .....	39
(3) 面接・問診・診察のポイントをリスクコミュニケーションの観点で例示 .....	40
7. 予防接種後副反応を疑う症状の報告 .....	41
(1) 予防接種後副反応疑い報告の方法 .....	41
(2) 報告が必要となる症状 .....	42